

剣淵町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

剣淵町では、剣淵市街地(JR剣淵駅)と剣淵温泉レークサイド桜岡間、市街地温泉連絡線(通称・温泉バス、1路線)は、利用がしやすく長期的・安定的な運行維持を図るため、通年運行、安価な運賃での運行とし、特に主な利用者の70歳以上の町民は無料としている。このことに加え、利用者の意見・要望等をこまめに聞き取りすることで、誰にでも利用しやすい環境を整え、バス利用者の増に努めている。

この事業は、主要幹線交通への連絡も目的としており、これからもJR宗谷本線及び道北バス名寄線と地域内フィーダー系統とが一体となった運行体系を継続していく。

また、スクールバスと一般混乗を行っている混乗型バス(3路線)の運行を継続していくことで、引き続き利用者に向けて、剣淵町の公共交通体系の維持とともに地域住民の足となる交通手段の存続に向けて利用の促進を図る。

生活交通確保維持改善計画の目標

計画目標
市街地温泉連絡バス 目標値 6,000人

令和5年度事業概要

市街地温泉連絡バス運行事業(市街地温泉連絡線)
・運送者 剣淵町 ・運行系統 市街地温泉連絡線
起点 JR剣淵駅(剣淵町仲町2番地3)
終点 剣淵温泉レークサイド桜岡(剣淵町東町5141番地)
・運行期間 継続運行
令和2年10月1日から令和5年9月30日までの3カ年間
・運行日 通年運行
・運行回数 1日5回(ただし、金曜日のみ2回)、年間運行実績 1,669回
・運行距離 8.1km
・運賃 全区間乗車1回につき 大人50円(小人30円)
なお、70歳以上の町民は無料

地域公共交通の現況

- 鉄 道:JR北海道(株)[宗谷本線]
- 路線バス:道北バス(株)[名寄線]
- 都市間バス:道北バス(株)及び北海道中央バス(株)[名寄線]
- ハイヤー:(株)士別ハイヤー
- 町有バス:市街地温泉連絡線バス
- 町有バス:一般混乗型絡線バス
- デマンド型:乗合自動車(士別ハイヤーへの委託)

協議会開催状況

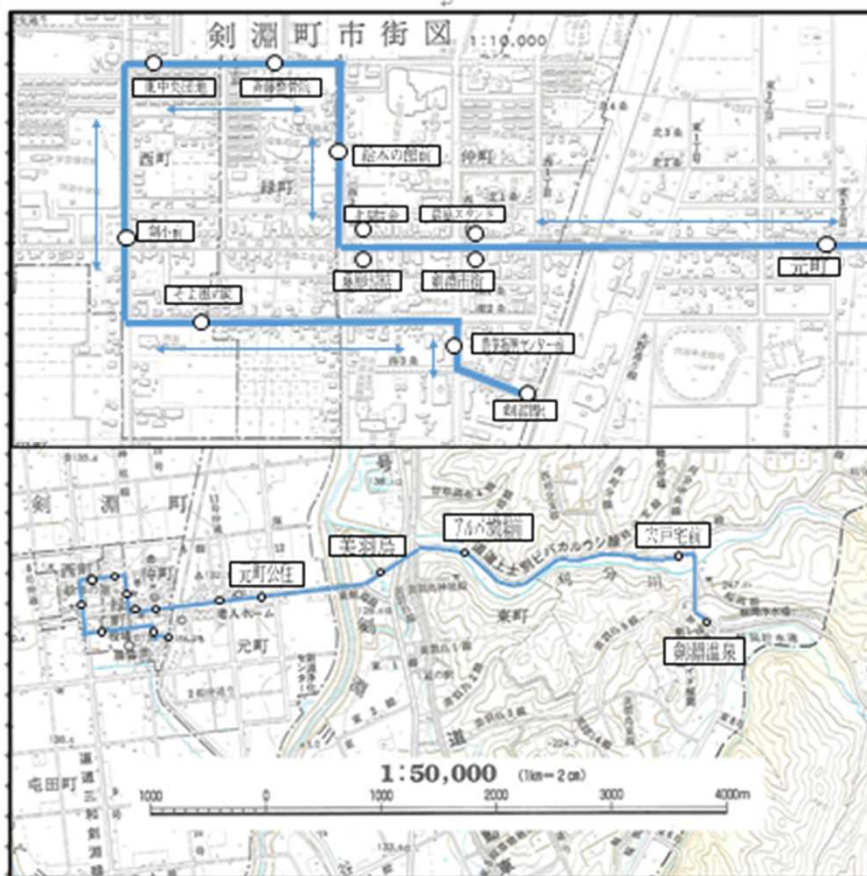
- 令和5年1月10日[書面会議]
・令和4年度第2回剣淵町地域公共交通会議
主な議題 * 令和4年度事業評価について
- 令和5年2月17日
・令和4年度第1回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
主な議題 * 剣淵町地域公共交通活性化協議会(組織)への改めについて
* 剣淵町地域公共交通計画の作成及び意向調査等について
- 令和5年6月15日
・令和5年度第1回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
主な議題 * 剣淵町地域公共交通計画作成に係る意向調査結果について
* 剣淵町有バス路線の変更について
* 剣淵町地域内フィーダー系統確保維持計画(令和6補助年度の地域公共交通計画認定申請)について
- 令和5年9月14日
・令和5年度第2回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
主な議題 * 剣淵町地域公共交通計画作成
* 自家用有償旅客運送(路線変更等)について
- 令和5年12月13日
・令和5年度第3回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
主な議題 * 剣淵町地域公共交通計画作成
* 地域内フィーダー系統確保維持計画の令和5年度事業評価

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・公共交通空白地の運送として、交通弱者と言われる高齢者、障がい者等の利便性を考慮しつつ、市街地温泉連絡線を運行した。
- ・市街地温泉連絡線の主な利用者は高齢者で、特に70歳を超える町民の利用である。なお、料金については、70歳を超える町民は無料とした。
- ・新規ストアー開業で、利用者の利便性を高めるため、街中の路線変更を行った。
- ・市街地温泉連絡線及びスクールバスと一般混乗を行っている混乗型バスについては、鉄道(JR剣淵駅)、路線バス(剣淵市街)との連絡に配慮した運行時刻とした。

2) 運行系統



【凡 例】

○市街地温泉連絡線バス既存路線

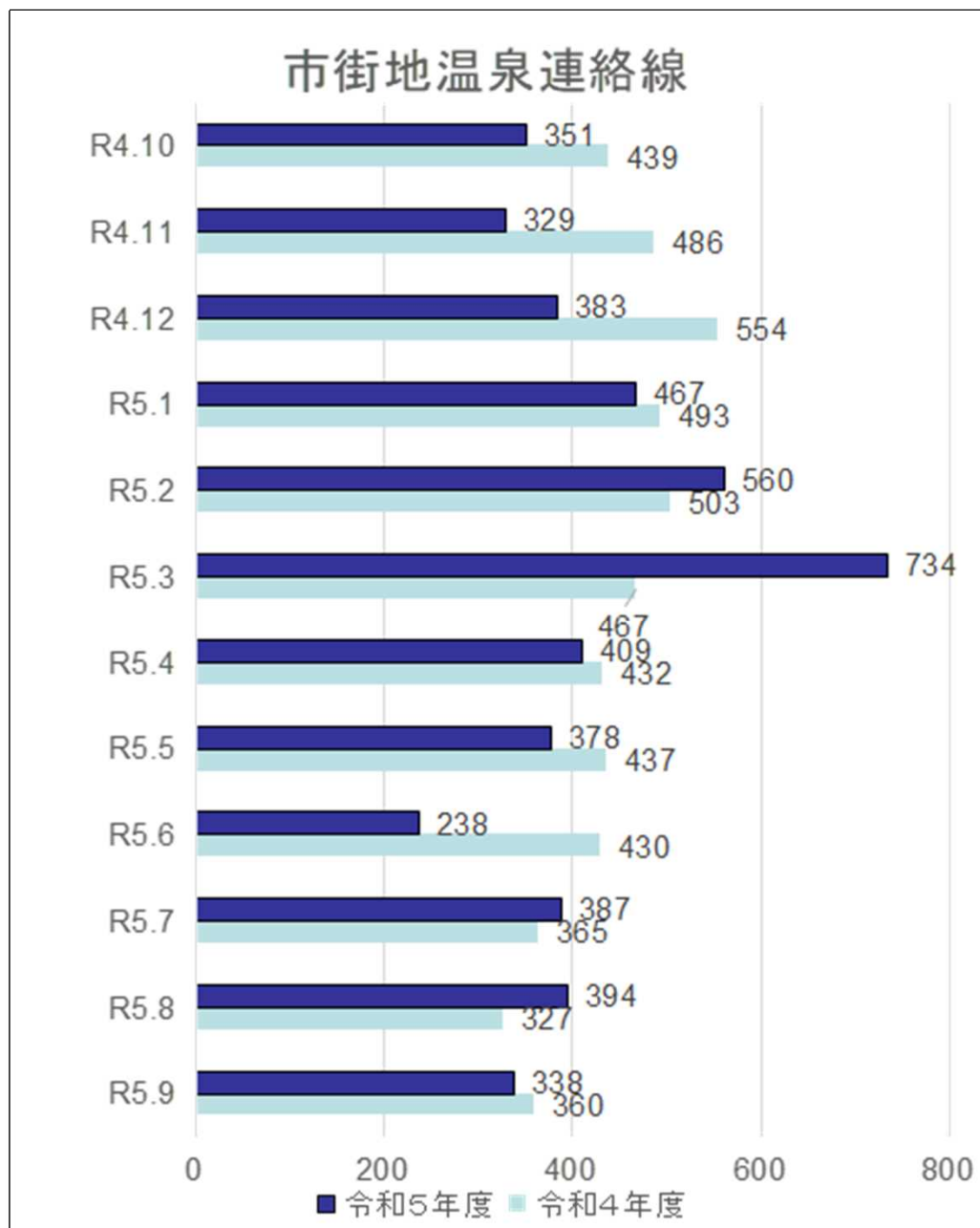
[留 意]

○令和5年7月1日から一部路線を変更する。

「剣淵駅」の次に「農業振興センター前」(変更前・「役場前」)を通る路線とする。

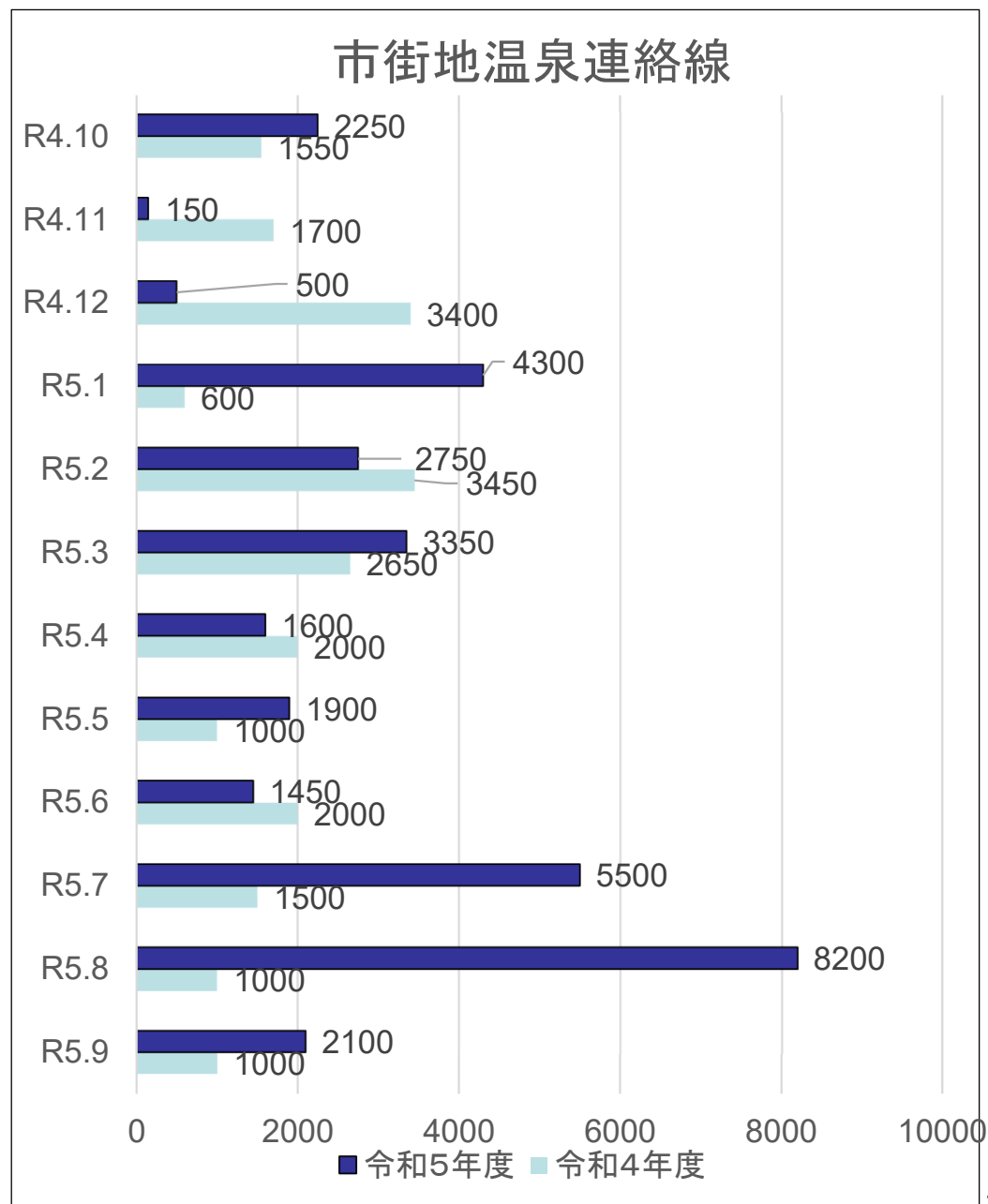
3) 利用実績 (人)

令和5年度 4,968人 令和4年度 5,293人



4) 収入実績 (円)

令和5年度 34,050円 令和4年度 21,850円



5) 事業実施の適切性

当該計画の位置づけしたとおり実施された。

6) 目標・効果達成状況

令和2年の1月以後の新型コロナウイルス感染症の蔓延・拡大の影響を受けるなかで、令和5年5月8日から感染症分類・5類に移行するものの、コロナ禍前の利用状況(令和元年度7,441人)には至ってはいない。

当該感染症の影響のほか、主たる利用者(70歳を超える町民)の減も大きな要因とは言えるが、70歳を超える町民においては、自家用車での温泉施設の利用も多く、市街地温泉連絡線の利用に影響があると推測できる。

7) 事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症の終息の見通しがたっていないが、コロナ禍前の利用回復をめざし、感染対策に留意しつつ、利用者への安心安全な運送を心がけ、路線の利用を図るための啓発や利用者の声(意見・要望等)に耳を傾け、利用向上につながるよう努める。

主たる利用者のうち70歳を超える町民の利用が多く、これにより収入は僅かであるが、利用者への福祉的支援の要素の側面がある。しかしながら、運送維持に係る経費は増すことが見込まれ、コスト削減等に向けた検討や実行に向けた取組に努める。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 目標値を達成することができなかったが、今後も新たな利用者ニーズの掘り起こしを行うなど、現在作成中の地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進の取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。